

「あまみエフエム ディ！ウェイヴ」放送原稿〈8月9日（金）放送分〉

テーマ「奄美先人の知恵」

あまみエフエム ディ！ウェイヴをお聞きの皆様，おはようございます。鹿児島県立奄美図書館です。今週は，毎月第2週に，奄美の文化・暮らしにおける先人の工夫などを紹介する「奄美先人の知恵」の5回目です。

今回は，瀬戸内町与路島^{よろじま}のサンゴの石垣について紹介しましょう。

瀬戸内町与路島は，加計呂麻島^{かけろまじま}の南に位置し，面積は9.35平方キロメートル。『平成24年度奄美群島の概況』によると，1集落に101人が住む小さな島です。『与路島（奄美大島）誌』に記載されている国勢調査の数字からは，大正から昭和30年頃まで1000人以上もの人々が住み，昭和25年には，270世帯1348人という記録を見ることができます。

そして，島の家々はサンゴ石^{いし}を積み上げた外壁が数多く残っています。サンゴの石垣は情緒があり，とても魅力のある与路島ならではの風景となっています。

その石垣は，境界線の役割として家の周りに積み上げられましたが，台風などの強い風を防ぎ，夏は隙間^{すきま}から涼しい風も運んでくれる，島の暮らしに合ったものでした。

石垣に利用するサンゴ石の多くは，海で採集したものです。そのほとんどは生きているサンゴではなく，すでに死んでしまって白化^{はっか}したものでした。採集は，6月から10月頃まで，集落総出の「ユイワク」と呼ばれる共同作業として行いました。海の中で石を拾って，舟に入れる泳ぎが得意な人，舟を漕いで岸まで運ぶ役割の人，そして，浜辺で待機して，舟から石をおろして運ぶ役割の人の，三つの班に分かれての作業です。そして，陸揚げしたサンゴは，一か月程陰干しをして，付着しているものの匂いを取りました。

その後，石垣を積み上げていく作業となりますが，石垣の耐久年数は積む人の技術によって差が出るもので，不慣れな人が積んだときのエピソードとして，次のような話があります。「ある人が自分の畑周りを石垣で囲おうと，手伝いの人夫を4人頼んで石積みをしました。夕方には，畑周りをぐるりと積み上げて完成したので，その場で祝いをしようと宴会を始めていました。ところが，突然ガラガラガラッ，と大きな音が響いて全部崩れてしまいました。」

サンゴ石採集の共同作業は，10年に1回ぐらいのペースで行っていましたが，昭和34年頃を最後に行われなくなりました。人口がだんだん減ってきたことや，与路島にコンク

リートのブロック塀が入ってきたことなどが理由です。

そして、当時は次のように考えられて、ブロック塀に変える家が多く見られました。一つ目に、ブロック塀の方が風に対する強度が強く、丈夫だと見られたこと、二つ目に、ブロックは幅が狭いので、宅地の面積が増えてその分を活用できること、三つ目に、台風のたびに石を積み直したりする手間も、補修の必要もなくなり、半永久的であること、四つ目に、ブロックは隙間がないために、ハブの侵入や棲みかとなることを未然に防げることなどです。

しかし、50年以上経過した現在では、ブロックをつなぎとめていた内部の鉄骨が、長年の風と潮風によってむき出しとなったり、曲がってきたりしました。それによって、サンゴの石垣のほうに耐久性にも優れているとの認識が広まり、昔ながらの与路島の景観にもどそうという動きも見られ、サンゴの石垣の価値が見直されました。最近建てられた住宅の周りにサンゴの石垣を積んでいるところも見られます。

平成21年には、国土交通省が、海とかかわる島々ならではの自然や歴史・文化、暮らしなどを反映する景観を、島に暮らす人々に「島の宝」として再認識してもらい、日本の「宝」として多くの人々に知ってもらうために、「島の宝 100 景」を一般公募しました。

そして、この「島の宝 100 景」に、与路のサンゴの石垣が「涼を呼ぶサンゴの石垣」として選ばれ、次のように紹介されています。「集落全体にみられるサンゴの石垣は、昔、地元の人たちが総出でサンゴを海から切り出し積み上げられたものです。当時、海にぽつんと浮かぶ小さな島にとって、サンゴは塀を作るための貴重な建築資材でした。夏は風通しがよく、涼しさも運んでくれ、コンクリート塀よりもこの地の気候にあったサンゴの石垣は、島の大半の家々にまだ残っています。島の人々が協力して積み上げ、造られた集落の美しい石垣とともにある島の人々の暮らしは与路島ならではの景観です。」

今回紹介した、サンゴの石垣については、『瀬戸内町立図書館・郷土館紀要 第4号』に掲載されている町健次郎^{まちけんじろう}さんの「与路島ノート2」に詳しく紹介しています。

「島の宝」「日本の宝」として、さらには、世界に誇るべき景観として私たちが大切にすべきものについてもう一度考え、また、奄美の自然と暮らしの中で先人が築いてきた知恵を次の世代に引き継ぐために、奄美のことについて書かれた書籍に触れてみてはどうでしょうか。

以上、鹿児島県立奄美図書館でした。